2027年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月9日

上場会社名　持田製薬株式会社　　上場取引所　東
コード番号　4534　URL https://www.mochida.co.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 持田　直幸
問合せ先責任者　(役職名) 経理部長　(氏名) 宮本　憲一　TEL 03-3358-7211

半期報告書提出予定日　2026年11月11日　配当支払開始予定日　2026年12月1日
決算補足説明資料作成の有無　：　有
決算説明会開催の有無　：　有　(アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2026年4月1日～2026年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期中間期	64,366	17.1	7,103	43.0	8,128	56.9	6,707	73.9
2026年3月期中間期	54,985	7.6	4,967	31.0	5,179	27.0	3,856	36.5

(注) 包括利益　2027年3月期中間期　4,499百万円　(△24.1%)　2026年3月期中間期　5,930百万円　(131.8%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期中間期	190.01	―
2026年3月期中間期	108.79	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期中間期	184,911	142,352	77.0
2026年3月期	182,720	140,326	76.8

(参考) 自己資本　2027年3月期中間期　142,352百万円　2026年3月期　140,326百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	―	40.00	―	40.00	80.00
2027年3月期	―	42.50			
2027年3月期(予想)			―	42.50	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 2027年 3月期の連結業績予想(2026年 4月 1日～2027年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	126,000	7.7	10,500	3.5	12,500	11.6	10,000	26.5	284.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 ： 無

新規 ― 社 (社名) 、 除外 ― 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 有

(注) 詳細は、添付資料P.9「2.中間連結財務諸表及び主な注記(4)中間連結財務諸表に関する注記事項 (中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無
② ①以外の会計方針の変更 ： 無
③ 会計上の見積りの変更 ： 無
④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年3月期中間期	36,390,000 株	2026年3月期	36,390,000 株
② 期末自己株式数	2027年3月期中間期	1,266,379 株	2026年3月期	940,363 株
③ 期中平均株式数 (中間期)	2027年3月期中間期	35,301,310 株	2026年3月期中間期	35,450,360 株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料は、2026年11月9日 (月) に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
(1)経営成績に関する説明 ……2
(2)財政状態に関する説明 ……3
(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……3
2．中間連結財務諸表及び主な注記 ……4
(1)中間連結貸借対照表 ……4
(2)中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 ……6
中間連結損益計算書 ……6
中間連結包括利益計算書 ……7
(3)中間連結キャッシュ・フロー計算書 ……8
(4)中間連結財務諸表に関する注記事項 ……9
（継続企業の前提に関する注記） ……9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ……9
（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） ……9
3．補足情報 ……10
(1)[連結]設備投資、減価償却費、研究開発費 ……10
(2)主要製品の売上高 ……11
(3)医薬品等開発状況 ……12

1．当四半期決算に関する定性的情報

(1)経営成績に関する説明

国内医薬品業界においては、薬価改定が毎年実施される等、厳しい事業環境が続いています。原材料価格の上昇をはじめとするコストの増加傾向も継続しています。

当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）は、企業理念として掲げる人類の健康と福祉への貢献という普遍的使命のもと、事業活動を展開しています。2022年度には、持続的成長の実現に向けて当社グループが目指す姿である「2031年のありたい姿」を策定しました。さらに、2025年度には、この実現に向けた「成長戦略加速の3年間」と位置づける25-27中期経営計画を策定し、「コア事業の収益力強化」「成長事業の継続投資」「成長を支える経営基盤強化」を重点テーマとして取り組んでいます。

当中間連結会計期間における医薬品関連事業は、引き続き、循環器、消化器、産婦人科、精神科を重点領域として、主力製品を中心とした情報提供活動を積極的に展開しました。また、ヘルスケア事業は、皮膚科医・産婦人科医や看護師等の高い支持を基盤に、マーケティングの推進に努め、市場開拓を図りました。

当中間連結会計期間の売上高は64,366百万円で前年同期比17.1%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業は薬価改定の影響を受けたものの、主に新薬が伸長し、売上高は59,988百万円で前年同期比17.5%の増収となりました。新薬の売上高は前年同期を上回りました。潰瘍性大腸炎治療剤リアルダ、慢性便秘症治療剤グーフィス、痛風・高尿酸血症治療剤ユリス、肺動脈性肺高血圧症・間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤トレプロスト及び潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤オンボーが伸長しました。長期収載品の売上高は前年同期を下回りました。バイオシミラーを含む後発品の売上高は前年同期を上回りました。

ヘルスケア事業の売上高は4,378百万円で前年同期比11.5%の増収となりました。抗真菌成分配合のシャンプー・石鹸をはじめとするコラージュフルフル及び基礎化粧品コラージュリペアの両ブランドにおいて売上高が伸長しました。

次に当中間連結会計期間の利益面につきましては、医薬品関連事業の売上高増加に伴う売上総利益の増加により、営業利益は7,103百万円で前年同期比43.0%の増益となりました。また、アンドファーマ株式会社に係る持分法投資利益の計上等により、経常利益は8,128百万円で前年同期比56.9%の増益となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は6,707百万円で前年同期比73.9%の増益となりました。

研究開発の状況として、研究面では、今後成長が見込まれる新たなモダリティを取り込み、創薬パイプラインの充実を図っています。核酸医薬については、競争優位性を念頭にsiRNA医薬の創薬研究に集中的に取り組んでおり、高度な専門性を有する人財の確保や、創薬技術の獲得を積極的に進めています。細胞医薬については、再生医療の知見・技術を有する企業と提携し、乳歯歯髄幹細胞SHED、高純度間葉系幹細胞RECによる治療法の開発を進めています。

臨床開発面では、肺高血圧症治療剤（吸入粉末剤） MD-712、ユリスの小児適応及び月経困難症治療剤MD-352は承認申請中です。造血幹細胞移植後の非感染性肺合併症の治療を目的とした細胞医薬品HLC-001及び妊娠に伴う悪心・嘔吐（いわゆるつわり症状）治療剤BON-001は、臨床第Ⅲ相段階にあります。

次世代の柱の一つと位置づけるバイオマテリアル事業においては、国内で海綿体神経損傷治療材dMD-002及び癒着防止材dMD-003の開発を進めるとともに、米国においてもdMD-002の開発を進めています。

アライアンスに関しては、株式会社富士薬品と、トピロリックの日本における製造販売承認の承継及び資産譲受に関する契約を2026年8月に締結しました。米国のPBC Biomed Inc.と、神経再生誘導材ReFeelの米国における販売に関する契約を2026年10月に締結しました。中国のQilu Pharmaceutical Co., Ltd.と、バイオシミラーの日本国内における開発及び販売に関する包括的提携契約を2026年10月に締結しました。

当中間連結会計期間の研究開発費は5,378百万円となりました。

(2)財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当社グループの当中間連結会計期間末の総資産は、184,911百万円となり、前連結会計年度末比で2,190百万円増加いたしました。

資産の増加は、主にその他の流動資産に含まれる仮払金が減少しましたが、長期前払費用や売掛金及び契約資産が増加したためです。負債の増加は、主にその他の流動負債に含まれる未払消費税等が減少しましたが、買掛金が増加したためです。純資産の増加は、主にその他有価証券評価差額金の減少がありましたが、親会社株主に帰属する中間純利益の計上により利益剰余金が増加したためです。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、28,573百万円となり、前連結会計年度末比で2,484百万円減少いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、主にその他の流動資産に含まれる仮払金の減少がありましたが、長期前払費用の増加や売上債権の増加により854百万円の支出(前年同期は4,044百万円の収入)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形及び無形固定資産の取得による支出がありましたが、投資有価証券の売却による収入により836百万円の収入(前年同期は1,949百万円の収入)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払や自己株式の取得による支出により2,491百万円の支出(前年同期は1,431百万円の支出)となりました。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間はほぼ計画に沿った業績で推移しているため、2026年5月15日に公表した連結業績予想から修正は行っていません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1)中間連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当中間連結会計期間 (2026年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,064	25,582
売掛金及び契約資産	36,478	38,807
有価証券	2,993	2,990
商品及び製品	20,126	18,185
仕掛品	2,511	4,183
原材料及び貯蔵品	13,484	15,469
その他	15,362	5,198
流動資産合計	119,021	110,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,520	6,351
機械装置及び運搬具（純額）	1,582	1,496
土地	6,046	6,046
その他（純額）	2,152	2,863
有形固定資産合計	16,302	16,758
無形固定資産	1,121	1,045
投資その他の資産		
投資有価証券	39,228	36,503
退職給付に係る資産	699	686
長期前払費用	5,068	17,643
繰延税金資産	820	1,393
その他	458	462
投資その他の資産合計	46,275	56,689
固定資産合計	63,699	74,492
資産合計	182,720	184,911

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （2026年3月31日）	当中間連結会計期間 （2026年9月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,779	11,849
電子記録債務	998	1,068
未払法人税等	2,970	2,602
賞与引当金	2,409	2,181
その他の引当金	165	144
その他	11,411	10,591
流動負債合計	27,734	28,437
固定負債		
長期借入金	10,000	10,000
退職給付に係る負債	3,337	3,321
その他	1,322	799
固定負債合計	14,659	14,120
負債合計	42,394	42,558
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	121,251	126,540
自己株式	△3,270	△4,325
株主資本合計	127,081	131,316
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,412	10,313
為替換算調整勘定	△30	△12
退職給付に係る調整累計額	861	735
その他の包括利益累計額合計	13,244	11,036
純資産合計	140,326	142,352
負債純資産合計	182,720	184,911

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年4月 1日 至 2026年9月30日）
売上高	54,985	64,366
売上原価	28,133	34,275
売上総利益	26,852	30,091
販売費及び一般管理費	21,884	22,987
営業利益	4,967	7,103
営業外収益		
受取利息	57	57
受取配当金	236	283
持分法による投資利益	―	734
その他	68	74
営業外収益合計	362	1,148
営業外費用		
支払利息	1	93
持分法による投資損失	32	―
為替差損	106	24
その他	10	5
営業外費用合計	151	124
経常利益	5,179	8,128
特別利益		
固定資産売却益	2	2
投資有価証券売却益	―	1,032
特別利益合計	2	1,034
特別損失		
固定資産除売却損	1	3
固定資産撤去費用	―	16
特別損失合計	1	19
税金等調整前中間純利益	5,180	9,142
法人税等	1,323	2,435
中間純利益	3,856	6,707
親会社株主に帰属する中間純利益	3,856	6,707

（中間連結包括利益計算書）

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年4月 1日 至 2026年9月30日）
中間純利益	3,856	6,707
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,148	△2,152
為替換算調整勘定	―	7
退職給付に係る調整額	△74	△109
持分法適用会社に対する持分相当額	―	45
その他の包括利益合計	2,074	△2,207
中間包括利益	5,930	4,499
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	5,930	4,499

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前中間連結会計期間 （自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日）	当中間連結会計期間 （自 2026年4月 1日 至 2026年9月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	5,180	9,142
減価償却費	1,421	1,881
固定資産除売却損益（△は益）	△0	1
固定資産撤去費用	－	16
投資有価証券売却損益(△は益)	－	△1,032
持分法による投資損益（△は益）	32	△734
賞与引当金の増減額（△は減少）	△239	△227
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△195	△163
受取利息及び受取配当金	△294	△340
支払利息及び支払手数料	8	96
売上債権の増減額（△は増加）	△1,284	△2,326
棚卸資産の増減額（△は増加）	△520	△1,716
長期前払費用の増減額（△は増加）	△55	△13,589
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△875	10,222
仕入債務の増減額（△は減少）	2,338	2,139
その他の流動負債の増減額（△は減少）	△358	△1,563
その他	△20	△70
小計	5,136	1,734
利息及び配当金の受取額	294	340
利息及び手数料の支払額	△8	△99
法人税等の支払額	△1,376	△2,830
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,044	△854
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の売却による収入	3,000	－
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,058	△557
有形固定資産の売却による収入	2	2
投資有価証券の売却による収入	－	1,395
その他	5	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,949	836
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,417	△1,417
自己株式の取得による支出	△0	△1,058
自己株式の売却による収入	0	0
その他	△13	△14
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,431	△2,491
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	24
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	4,566	△2,484
現金及び現金同等物の期首残高	48,151	31,058
現金及び現金同等物の中間期末残高	52,717	28,573

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 補足情報
(1)［連結］設備投資、減価償却費、研究開発費

１．設備投資

	2026年3月期	2027年3月期
第２四半期	645　百万円	1,150　百万円
通　　期	1,812　百万円	（予）　**3,000**　百万円

２．減価償却費

	2026年3月期	2027年3月期
第２四半期	1,421　百万円 （うち、有形　698 百万円）	1,881　百万円 （うち、有形　691 百万円）
通　　期	2,979　百万円 （うち、有形　1,471 百万円）	（予）　**4,400**　百万円 （うち、有形 1,700 百万円）

３．研究開発費

	2026年3月期	2027年3月期
第２四半期	5,302　百万円 （売上高比　9.6%）	5,378　百万円 （売上高比　8.4%）
通　　期	12,157　百万円 （売上高比 10.4%）	（予）　**14,500**　百万円 （売上高比　11.5%）

(2)主要製品の売上高

主 要 製 品 の 売 上 高
(2027年3月期 中間実績)

(単位：億円)

製品名		前期 2026年3月期		当期 2027年3月期		対前年同期増減率
		中間実績	年間実績	中間実績	年間見込	
潰瘍性大腸炎治療剤	リアルダ	80	168	95	174	+ 19%
慢性便秘症治療剤	グーフィス	44	90	47	97	+ 7%
痛風・高尿酸血症治療剤	ユリス	27	63	37	73	+ 35%
肺動脈性肺高血圧症・間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤	トレプロスト	28	61	36	70	+ 27%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤	エパデール	22	46	24	53	+ 7%
血液凝固阻止剤	ヘパリンNa	6	14	8	17	+ 23%
潰瘍性大腸炎治療剤	コレチメント	3	6	3	8	+ 11%
後発品		162	351	224	427	+ 37%
(内、子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤ジエノゲスト)		57	122	65	131	+ 15%
スキンケア製品		39	79	43	83	+ 11%

・億円未満切り捨て、増減率は切り捨て前の数字で計算
・トレプロスト：トレプロスト吸入液、及びトレプロスト注射液を含む
・エパデール：エパデールEM、エパデールS、及びエパデールカプセルを含む

(3)医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 [製品名]	開発段階	予定適応症	剤型	備考
MD-712 〈トレプロスチニル〉	申請中	肺動脈性肺高血圧症 間質性肺疾患に伴う肺高血圧症	吸入粉末剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発
FYU-981 〈ドチヌラド〉 [ユリス]	申請中	痛風・高尿酸血症 (小児適応)	経口剤	(株)富士薬品と共同開発 ※2026年6月当社がユリスの製造販売承認を承継
＊ MD-352 〈ジエノゲスト製剤〉	申請中	月経困難症	経口剤	自社開発
HLC-001	臨床第Ⅲ相	造血幹細胞移植後の非感染性肺合併症	注射剤	細胞医薬品 ヒューマンライフコード(株)と共同開発
＊ BON-001	臨床第Ⅲ相	妊娠に伴う悪心・嘔吐	経口剤	Duchesnay Inc.から導入 自社開発

【医療機器】

開発コード ＜製品名＞	開発段階	予定する使用目的 又は効果	備考
dMD-002	検証的治験	海綿体神経損傷修復	アルギン酸シート 自社開発
dMD-003	(非開示)	術後の癒着防止	アルギン酸シート 自社開発
dMD-002	探索的治験	海綿体神経損傷修復	開発地域:米国 アルギン酸シート 自社開発

医療機器の臨床試験に関する開発段階を探索的治験と検証的治験に区分しています

＊ 2027年3月期第1四半期決算短信(2026年8月3日公表)からの変更点